

生き物の目から見た渡良瀬遊水地

日本野鳥の会栃木県支部
支部長 河地辰彦

1. 生き物の目から見た渡良瀬遊水地の現状と未来

当支部は平成18年12月9日に小山市文化センター小ホールにおいてシンポジウム「生き物の目から見た渡良瀬遊水池の現状と未来」を開催しました。このシンポジウムでは東京大学保全生態学研究室教授の鷺谷いずみ先生に基調講演をお願いし、そのあと植物、昆虫、鳥類の各地元研究者らによるパネルディスカッションを行ないました。

このパネルディスカッションにおいて、植物の研究者からは「現状の渡良瀬遊水地の植生は単純化が進みつつあるものの比較的大規模な湿地生態系が存続している。特に人為的な攪乱が適宜加えられてきたことから全国的に見れば消失しつつある氾濫原植物とそれに支えられた生態系が維持された」との発表がありました。

また、昆虫の研究者からは「種類数は決して多いとはいえないが湿地性昆虫の貴重なものが数多く生息している。しかも貴重な種が、種類によっては極めて個体数の多いものがある」、また「ヨシ焼きや土建業者による適度な土砂の攪乱は、結果的に自然の力で行っていた洪水などによる攪乱を人が代行したのと同じことになり、これが豊かな昆虫相を維持するのに有利に働いてきたものと思われる」との発表もありました。

更に、鳥類の研究者からはクイナ類やチュウヒなど湿地性鳥類の生息状況から「現在の第2調節地には湿地性鳥類の選好する地表に水のある湿地環境が少ないことが考えられる」との指摘があり、「何らかの対策が必要」との発表でした。

2. 鳥類生息地としての渡良瀬遊水地

1) 猛禽類の生息地

- ◆ 越冬猛禽類 約10種（チュウヒ類、タカ類、ハヤブサ類、フクロウ類）
特に、チュウヒ類の日本最大規模の採食地・ねぐら
- ◆ 繁殖猛禽類 約4種（タカ類、ハヤブサ類、フクロウ類）

2) 湿性草地鳥類の繁殖地

- ◆ クイナ類（シマクイナ、ヒクイナ、ヒメクイナ、クイナ）
- ◆ サギ類（ヨシゴイ、サンカノゴイ）
- ◆ 小鳥類（オオセッカ、オオヨシキリ、コヨシキリ）

3) 渡り鳥の中継地・集結地

- ◆ ツバメ類の大規模なねぐら・集結地（10万羽とも20万羽とも言われている）
- ◆ 草地性鳥類の中継地・越冬地（ノゴマ、オオジュリンなど）

4) 環境省版RDB掲載種37種（シマクイナ、サンカノゴイ、オオタカなど）

3. 治水と保護を両立させるラムサール条約登録湿地化

渡良瀬遊水地の周辺は渡良瀬川、巴波川、思川などが集中するため洪水が発生しやすく、地元住民には自然保護よりも治水優先の思いが根強くあります。そのため国交省では第2調整池全体を1メートル掘削して500万立方メートルの容量を確保しようとしています。

渡良瀬遊水地は、もともと洪水調節を目的に作られたものであり、既に17,180万立方メートルの洪水調節容量が確保されています。500万立方メートルの掘削はわずか3%増にしかなりません。そこで自然保護団体では地域の安全ためには周辺河川の堤防整備が重要であり、遊水地の大規模な掘削は自然を破壊するだけではないかと指摘しています。

一方、平成18年12月に開催されたシンポジウム「生き物の目から見た渡良瀬遊水池の現状と未来」では、渡良瀬遊水地には貴重な氾濫原特有の植物、昆虫、鳥類が数多く存続していることが報告されました。これらは「ヨシ焼きや適度な土木工事による人為的攪乱が洪水などによる自然攪乱を代行しているから」との結論でした。

もちろん大規模な土木工事は渡良瀬遊水地の動植物に大ダメージとなりますが、小規模な土木工事の継続であれば自然攪乱を代行する手段になり、遊水地の動植物にとってはかえって有益になりうるのではないのでしょうか？その結果、湿地が再生され、治水容量のアップにつながれば治水と保護が両立できるというものです。

その点、ラムサール条約の基本理念は、「賢明な利用（その生態系の自然特性の維持と両立するような、人類の利益のための湿地の持続可能な利用）」であって、治水と保護を対立させるものではありません。また、ラムサール条約登録湿地という世界的なブランドは首都圏からも近いこの地域の活性化にも将来寄与するだろうと思います。

4. エコ・ミュージアムプラン「コウノトリの舞う渡良瀬に」

私たちは渡良瀬遊水地の賢明な利用方法として下の様なエコ・ミュージアムプランを提案しています。

エコ・ミュージアムプランのイメージ

- 1) 渡良瀬遊水地のかけがえのない自然を保全しつつ、より豊かな湿地の再生をはかり、生物の多様性を高める。
- 2) 渡良瀬遊水地を野外博物館とし、人々が自然環境と歴史を学ぶ場にする。
- 3) 野外自然博物館の利用拠点として、周辺市町のまちおこしを図る。

エコ・ミュージアムの具体案

- 第1調整池・・・残された自然を保全しつつ、多種のレジャーを楽しめる場に
- 第2調整池・・・原風景の再現を図りつつ、自然観察のできるサンクチュアリに
- 第3調整池・・・原風景の再現を図りつつ、コウノトリの野生復帰を助ける自然再生地に

以上